

報告

令和元年度地域医療を守る 住民活動懇談会

常任理事・地域医療部長 笹本 洋一

令和元年10月18日、北海道医師会館において「令和元年度地域医療を守る住民活動懇談会」を開催した。当会では平成21年からさまざまな住民活動を行っている団体と情報交換を行っており、今年度は11団体17名に参加いただいた。

はじめに北海道保健福祉部地域医療課・小川課長より、「医療機関・住民交流推進事業費補助金」について情報提供の後、北見赤十字病院の明日を考え支援する会より、機関紙「オホーツクの風」の発行状況や臨床研修医に対し北見の研修が思い出深いものになるよう「思い出づくりの集い（焼肉パーティー）」を開催していること、北見市内の中学生を対象とした模擬手術等を体験する「ブラック・ジャックセミナー」の開催等について活動報告が行われた。

次に、「働き方改革が行われる中、休日・夜間に対応する医療機関を維持していくために住民の視点から取り組んでいること」というテーマに基づきフリーディスカッションを行った。主な意見を紹介する。



懇談会の様子

【主な意見交換の内容】

○木下事務局長（ちとせの介護医療連携の会）：在宅医療の普及と啓発を中心に活動。大規模な市民フォーラムを開催する際に、医師から直接在宅医療の仕組み等を説明してもらっている。

○森代表（留萌がんばるかい）：留萌市立病院は、若手医師の勉強の場ということもあり、こちらから休んでくださいと言にくいところがある。この懇談会を機に住民側から医師に休暇を取ってもらうよう話をしたい。

○山川事務局長（地域医療を考える稚内市民会議）：稚内は、広大な地域ということもあり、市立稚内病院だけでは救急医療は難しく、現在は、循環器内科の常勤医が不在のため、月6回名寄市立総合病院へお願

いをしている状況。医師の働き方改革は大事だが、さらに救急医療に影響しないか市民にとっても不安なところであり、地域全体、町全体で応援していこうと体制を組んでいる。市立稚内病院には、脳神経外科もないため、稚内市として稚内禎心会病院の方に支援をしてもらっている。

○鈴木町議会議員（ひまわりクリニックサポーターの会）：医師も減少し、オンコールができなくなり、今年3月には無床となった。今後は、在宅医療に力を入れていく方向性になっているため、ここ2～3年で訪問診療への体制へ移行しなくてはならなくなるだろう。

また、道外の医療法人へ1年契約で医師の派遣を委託しており、とても不安定な状況である。今の課題としては、指定管理となっても仕方ないので、1年契約の派遣を解消し、常勤医を確保したい。

○丸山総務担当（白老町立病院を守る友の会）：戸田町長は、町立病院は無くなるとか、病院を診療所へ規模変更すると話していたが、今年になって意見が変わった。

来年4月「ウポポイ（民族共生象徴空間）」が完成予定で、観光客100万人が訪れると政府の目標として掲げられている。会では、内閣府へこのままだと町立病院は無くなるため、100万人の観光客が来て大丈夫なのかという情報と併せて署名活動をした。町長からも、病院は残すという話をもらっている。

穂別町立国保診療所は、医師1名で救急医療を行っていたが、町民のコンビニ受診が多く、医師が疲れ切って辞職してしまった。そこで、苫小牧市医師会を中心に医師派遣をして何とか国保診療所を維持してきた経緯がある。

現在の苫小牧地域は、苫小牧市立病院と王子総合病院が輪番制で二次救急を行っている。本当に救急医療が必要なのか、まず苫小牧市夜間・休日急病センターを受診して、必要があれば、二次救急へ紹介をするという体制にした。地域の中で助け合いをすることで医師に負担をかけることがなくなると思う。

○土井会長（浦河赤十字病院を応援する会）：日高地区は、合併をしたことで約25,000人の市民を浦河赤十字病院で担当することになった。医師は、当直を担当して朝8時半に帰る予定が、救急患者等が重症だと昼まで帰ることができなくなる。

また、産婦人科は浦河赤十字病院にしかないため、どのように応援をしたら良いのか迷っている。

浦河赤十字病院の医師住宅が老朽化しているため、入居を嫌がられることがある。取り急ぎ2戸建設できないか検討しており、浦河町で行っている「子育て支援住宅」をモデルに浦河赤十字病院の土地を利用して、解体費も含めて4,500万円で新築する案。また、道の職員住宅があり、営利でなければ年間48万円での借用する案。（売却の場合は、1,250万円。）何とか充実できるよう改善を図りたいと思っている。

○川原代表（名寄市風連国民健康保険診療所サポートクラブ）：15年前に名寄市と合併し、名寄市立総合病院の一部として運営をしている。院長の松田先生の赤ひげ大賞受賞をきっかけにサポートクラブが設立されて3年がたった。

名寄市立総合病院は、訪問診療を行っていないので、風連国民健康保険診療所がその役割を担っており、24時間体制の訪問、看取りなど年間30件ほどある。

北海道医師会で、このような懇談会を折角開催しているのに出席率がこんなに悪いのはなぜなのか。大事な会なので、なるべく出席率を上げてほしい。

○笹本常任理事：各団体それぞれに予定があるので、事前に調整をしているが、なかなか日程が合わないところがある。今回も、参加団体が一番多い日程としているため、今後少しでも多くの団体に参加できるようにしていく。

○逢坂代表（北見赤十字病院の明日を考え支援する会）：「紹介状がないと診療をしてくれないのはなぜか」と訴える市民がまだいる。

地域のクリニックを訪問して、支援する会の活動を理解してもらい、中核病院と個人病院の関係、どんな心がけが必要かを聞いて北見赤十字病院を中心とした連携を模索していきたい。

救急医や医師不足などの問題については北見市休日夜間急病センターを受診するのは、子育て中の母親と子供が多いため、コンビニ診療にならないよう、市民でも少し勉強し合えば、住民同士の連絡・情報交換で、救急に行かなくても良い方法があるのではないか。そこが整えば、医師不足・働き方改革などの問題に少しでも役立つのではないか。できる範囲内でやっていきたい。

○土井会長（浦河赤十字病院を応援する会）：浦河には、個人病院が4つある。そこから、浦河赤十字病院へ応援に行き助け合っている。

○鳥本会長（公立芽室病院をみんなで支える会）：公立芽室病院では、午後の診療をしていない時期があった。病院としては、医師のことを考えての取り組みなのだが、町民からの不満の声があった。皆さんに病院への理解を深めてもらえるよう会員対象だった会報誌を町民対象として作成している。救急車を呼ぶ基準など明確にし、町民に周知をしていきたい。

また、病院をもっと身近に感じてもらうため、「病院まつり」を開催し、今年は1,100人が参加してくれた。医師に無理なく働いてもらう環境を整えるのは難しいが、少しずつ住民に理解を深めてもらいたいと思う。

○丸山総務担当（白老町立病院を守る友の会）：札幌の若い医師から就職したいと連絡はくるが、希望を聞くと「土日は休み、当直はしない、給料はそこそこほしい」というものである。詳しい説明をすると結局来てくれない。道外の医師の方が、就職率が高い。札

幌から来る医師が妻を伴い見学に来てくれた時に、官舎を見せると、「家が汚いから来たくない」との妻の意見で従事してもらえないことがあった。やはり基盤整備は重要で、考え方を変えないと絶対に医師は来てくれない。

北海道医師会としては、病院再編の話が発表されているが、この住民団体をまとめて運動を立ち上げるなどの取組をする予定はないのか。

○藤原副会長：北海道医師会としては、そのような運動は考えていない。各地域によって問題は異なる。一つに意見をまとめることはできない。

○森代表（留萌がんばるかい）：留萌では、患者データを各医療機関で情報共有できるように検討をしているが、コンピューターシステムの違いにより難しい状況にある。クラウド会計のソフトなど北海道医師会で一元管理できるものはないか。

○藤原副会長：システムの統一は難しい。札幌市内のそこそこの規模の病院でも電子カルテを使用していないところも多く、難しい状況にある。



道内の地域の医療機関を支えるための住民団体（28団体）

市町村	団体名
松前町	松前町病院「傾聴ボランティア」、「キルトサークル」、「絵手紙教室」
千歳市	スマイルハートリー NPO法人ちとせの介護医療連携の会
京極町	ひまわりクリニックサポーターの会
岩内町	地域医療を考える会
赤平市	赤平市社会福祉協議会ボランティアセンター
滝川市	滝川市立病院「菜の花」応援団
砂川市	砂川市立病院 院内ボランティア
深川市	ボランティア・わかぐさ
沼田町	地域医療コミュニティカフェ「あつたまーる」
苫小牧市	苫小牧市立病院ボランティア エールの会
白老町	白老町立病院を守る友の会
浦河町	浦河赤十字病院を応援する会
士別市	士別市立病院応援隊
名寄市	名寄市立総合病院サポートクラブ 名寄市風連国民健康保険診療所サポートクラブ 看護学校を創ろう（留萌がんばるかい）
留萌市	ボランティアスマイル NPO法人るもいコホートピア
羽幌町	地域医療を守る会「折り鶴」
稚内市	地域医療を考える稚内市民会議
北見市	北見赤十字病院の明日を考え支援する会
芽室町	公立芽室病院をみんなで支える会
本別町	本別町病院ボランティア運営会議
別海町	別海町医療サポート隊「医良同友」
羅臼町	羅臼の医療を支える会（RISの会）
根室市	ねむろ医心伝信ネットワーク会議 根室の地域医療を守る連絡会



最後に、北広島医師会・対馬会長から「救急医療体制については、働き方改革と言っても簡単には改善できないところがある。このような市民活動があれば医師の励みにもなると思う」と感想をいただいた。



以上のように、活発な意見交換が行われた。ご多忙のなか、ご出席いただいた各住民団体の皆様に厚く御礼申し上げます。